

# ドラクワ+マジ

コブの大きさや位置、患者の年齢などにより、さまざまな要因を鑑(かん)がみて治療方針は決めなければならぬ。そんな脳動脈瘤の治療で全国トップクラスの実力を誇るのが、昭和大学

脳の血管がコブ(瘤)のように膨らんで、くも膜下出血の最大原因となる「脳動脈瘤(りゅうどうみゃくじゆ)」は、細い管の力によってコブへの血流を止める治療が行われている。



「手術と脳血管内治療の両方に強みを持つハイブリッドな医療の提供をしています。巨大な脳動脈瘤に対しては、手術とカテーテル技術を組み合わせ新たな治療も行っています」

こう話す同科の水谷徹主任教授(57)＝顔写真＝は、脳動脈瘤手術の第一人者であり、血管壁が裂けて生じる解離性脳動脈瘤治療の世界的な権威だ。

巨大な動脈瘤では、コブへの血流を止めるため、別の血液の通り道を作るバイパス手術が必要になることがある。このときハイブリッド医療は大いに役立つという。カテーテルの先端についたバルーンで、コブのある血管の血流を

# 病院 脳動脈瘤に強い 探訪

病院脳神経外科だ。手術と血管内治療のスペシャリストを揃え、全国から難症例の脳動脈瘤の患者が受診している。「手術と脳血管内治療の両方に強みを持つハイブリッドな医療の提供をしています。巨大な脳動脈瘤に対しては、手術とカテーテル技術を組み合わせ新たな治療も行っています」

こう話す同科の水谷徹主任教授(57)＝顔写真＝は、脳動脈瘤手術の第一人者であり、血管壁が裂けて生じる解離性脳動脈瘤治療の世界的な権威だ。

巨大な動脈瘤では、コブへの血流を止めるため、別の血液の通り道を作るバイパス手術が必要になることがある。このときハイブリッド医療は大いに役立つという。カテーテルの先端についたバルーンで、コブのある血管の血流を

## 昭和大学病院脳神経外科

遮断する検査を行うと、新たな血液の通り道をどのように作ればよいかなど、正確な診断を行えるそうだ。

「不必要な治療を行わないために、ハイブリッド医療は役立ちます。患者さんによって、コブの位置、大きさ、形はもとより、血管の走行や癒着(ゆちゃく)の状態も異なるため、正確に患部の状態を把握することが重要なのです」

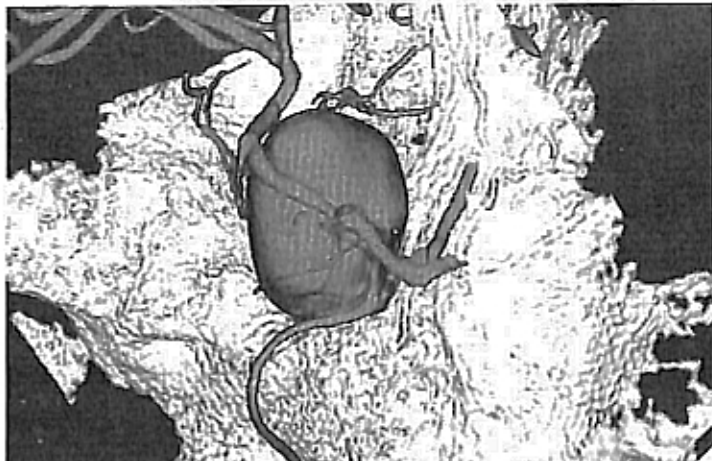
複雑な仕組みの大きなコブをいかに克服するか。それには特殊な医療技術が求められることから、水谷教授は、コンピュータも駆使している。

「当院では一昨年の5月にハイブリッド手術室を設置し、手術中に精密なカテーテル検査なども行えるようにし

ました。ワークステーションに接続して、医局員は手術中も、手術後も、誰もが見られるようにしています。それ

は、若い医師の教育に役立つ「手術中に血管を傷つけて出血することが、ほとんどない

水谷教授の「無血の手術」の特技を若い人たちにも、学ばせようとしているのだ。「手術は千差万別で技術にゴールはありませんが、今後さらに発展させたいと思っています」と話す。難症例の脳動脈瘤の克服に向けて邁進中だ。(安達純子)



### リアルタイム画像を共有

昭和大学病院脳神経外科では、脳の検査結果や手術の様子などについて、リアルタイムで医局員の誰もがハイビジョンで見られるように、コンピュータのネットワークシステムを構築している。コンピュータに詳しい同科の水谷主



任教授が、自ら作り上げた壮大なシステムだ。3Dの脳動脈瘤画像一写真一を自由自在な角度に動かして、血管の走行や癒着を調べるなど、手術方針を決める上でも役立っているという。ハイテクを駆使した同科ならではの。

(所在地) 〒142-8666 東京都品川区旗の台1の5の8  
☎03・3784・8000

# ハイブリッド医療を活用 コブを正確に把握し無血手術